

# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3 - モニタリングの実施状況
- 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- ~~添付様式4 - 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理~~

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5 - まちの課題の変化
- 添付様式5 - 今後のまちづくり方策
- 添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6 - 参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- ~~添付様式9 有識者からの意見聴取~~

(1) 成果の評価

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標					
B. 目標を定量化する指標			指標1 幹線道路沿線騒音値 指標2 団地内通学路の歩行空間整備率 指標3 公園利用者数	指標4、指標5を追加している 指標1 幹線道路沿線騒音値 指標2 団地内通学路の歩行空間整備率 指標3 公園利用者数 指標4 安心して防災施設を利用できる人数 指標5 受益戸数	事業の追加により、効果を計るための指標を追加する。 指標4: 地区内の指定避難所の防災機能を充実させる計画に基づき、備蓄倉庫を整備することにより、防災機能を向上し、安全性のある住環境を確保するため。 指標5: 安定した給水を行うために減圧弁を撤去してバイパス管を設置し、安心安全な住環境を整備するため。
C. 目標値					
D. その他( )					

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等へ の影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道50号線	50	L=1570m	79	L=1570m	事業費の精査により増額する	影響なし		
	市道30号線	-	-	43	L=660m	市道30号線沿いの住宅団地の騒音値が高いことから、排水性舗装により騒音値を下げるため、事業を新たに追加する	目標1に関係するが、影響は軽微のため数値目標は据え置く。		
	市道38号線	25	L=1500m	32	L=1500m	事業費の精査により増額する	影響なし		
	市道8170号線他4路線	15	L=780m	16	L=780m	事業費の精査により増額する	影響なし		
	市道7019号線他2路線	250	L=330m	292	L=330m	事業費の精査により増額する	影響なし		
	市道6146号線	8	L=200m	8	L=200m	変更なし	-		
	市道144号線	-	-	38	L=340m	通過交通の円滑な誘導、利便性の向上及び歩行者の安全を確保するため新たに追加する。	指標3に関係するが、影響は軽微のため数値目標は据え置く。		
公園	可児川下流域自然公園	5	A=1440㎡、トイレ	13	A=1440㎡、トイレ	事業費の精査により増額する	影響なし		
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	備蓄倉庫	-	-	18	6基	防災設備の充実を図るため、事業を追加。	防災向上を表す指標4を追加した。		
	消火栓整備	-	-	15	25基	提案事業より移動	影響なし		
高質空間形成施設									
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1 - 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等へ の影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

**提案事業**

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等へ の影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	消火栓整備 可児市南西地区	15	25基	-	-	基幹事業へ移動	影響なし	-	-
	西可児大橋耐震設計 可児市南西地区	-	-	8	市道30号関連 L=99m	市道30号線西可児大橋の橋梁点検を行い耐震補強設計を実施するため、新たに追加する。	指標1に係るが、影響は軽微のため数値目標は据え置く。		
	水道施設整備 可児市南西地区	-	-	1	L = 100m	適正なルートにバイパス管を設置し、安定した給水を行うため、新たに事業を追加する。	安定した給水に係る事業を追加したため、指標5を追加した。		
事業活用調査	事業効果分析事業 可児市南西地区	-	-	2	調査費	まちづくりの実効性を高めるため、成果の評価や目標が達成できたかを検証するために、新たに追加する。	影響なし		
まちづくり 活動推進事業									

1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

**(参考) 関連事業**

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
公園整備事業		可児市運動公園	4,061	4,061	H16 ~ H21	H16 ~ H25	整備継続中	
交通安全施設等整備事業		市道31号線	12	12	H18	H18	完了	
市道30号線橋梁耐震補強整備事業		市道30号線	-	100	-	H21	完了	

添付様式2 - 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度 2		1年以内の達成見込みの有無	
			基準年度		基準年度		基準年度		モニタリング	事後評価	事後評価	あり	なし		
指標1	dB	市道50号線沿い虹ヶ丘水道ポンプ場における環境騒音値を計測(昼間平均値) 従前値:平成16年12月13日時点、評価値:(計測)平成21年12月9日時点 計測時期:平成21年12月9日			71	H16	68	H22	モニタリング	-	-	モニタリング	-		
									事後評価	確定 見込み	66	事後評価			
指標2	%	鳩吹台、緑団地内における歩道付き通学路の内、歩道空間が改良された率(延長比)を計測 従前値:平成17年3月31日時点、評価値:(計測)平成22年8月31日時点 計測時期:平成22年8月末の事業進捗状況と平成22年度の工事計画に基づき推計			22	H16	50	H22	モニタリング	H21	81	モニタリング			
									事後評価	確定 見込み	81	事後評価			
指標3	人	可児市総合運動場と坂戸市民テニスコートの利用者数合計 評価値:都市再生整備計画期間中(平成18~21年度)公園利用者数の傾向からトレンドにより評価基準日を推計			43,700	H16	63,000	H22	モニタリング	-	-	モニタリング			
									事後評価	確定 見込み	78,400	事後評価			
指標4	人	地区内の指定避難所内、備蓄倉庫が整備された防災施設を利用できる人数を算出 従前値:平成17年3月31日時点、評価値:(計測)平成22年3月31日時点 計測時期:平成22年3月31日(事業が完了済みであり、平成22年8月末計測時点以降、数値の変動はない)			1,050	H16	4,050	H22	モニタリング	H21	4,050	モニタリング			
									事後評価	確定 見込み	4,050	事後評価			
指標5	戸	水道台帳に基づき、減圧弁が設置してあり安定した給水を受益できない住宅戸数(10戸)に対し、バイパス管の設置により給水が改善できた戸数 従前値:平成17年3月31日時点、評価値:(計測)平成22年8月31日時点(注)平成22年度末(平成23年3月31日)で事業完了見込み 計測時期:平成22年8月末の事業進捗状況と平成22年度の工事計画に基づき推計			0	H16	10	H22	モニタリング	H21	10	モニタリング			
									事後評価	確定 見込み	10	事後評価			

指標	目標達成度 ×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	目標値68dBを下回る66dBまで騒音が改善されたため。	
指標2	歩道付き通学路の歩行空間改良率の目標50%を上回る81%の改良が達成されたため。	
指標3	坂戸市民テニスコート・可児市総合運動場の合計利用者数の目標63,000人を上回る63,100人が見込まれるため。	
指標4	備蓄倉庫が整備された防災施設を利用できる人数の目標値4,050人が計画通りの整備により、そのまま4,050人が達成されたため。	
指標5	水道バイパス管設置による給水改善の目標戸数10戸が、同施設設置により、そのまま10戸が達成される見込みであるため。	

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。  
 2 目標達成度の記入方法  
 :評価値が目標値を上回った場合  
 :評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合  
 ×:評価値が目標値に達してあらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2 - その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考) 1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
			基準年度		基準年度		モニタリング	事後評価			
その他の数値指標1 歩道の歩きやすさに対する住民評価度	%	「歩道改修に伴う沿線住民へのアンケート」(H22年8月実施)のうち、質問2「改修によって歩道は歩きやすくなりましたか?」において、「歩きやすくなった」、「やや歩きやすくなった」の回答の合計の割合	-	-	-	-	モニタリング	-	-	90	目標1「まちづくりの基本性能である安全性やバリアフリーに配慮した住環境づくり」に対応する指標2がアウトプット指標であるため、アウトカム指標として住民による事業評価の割合を取りあげた
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標2 防災備蓄倉庫設置による生活安全度住民評価度	%	「防災備蓄倉庫設置に伴う対象自治会へのアンケート」(H22年8月実施)のうち、質問3「防災備蓄倉庫が新たに設置されたことにより、生活の安全度が高まったと思いますか?」において、「安全度は高まったと思う」、「少し安全度は高まったと思う」の回答の合計の割合	-	-	-	-	モニタリング	-	-	71	目標1「まちづくりの基本性能である安全性やバリアフリーに配慮した住環境づくり」に対応する指標4がアウトプット指標であるため、アウトカム指標として住民による事業評価の割合を取りあげた
							事後評価	確定	見込み		
その他の数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2 - 参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

「歩道改修に伴う沿線住民へのアンケート」の自由意見より、「交通安全度が良くなった」、「歩道の幅が確保され、安心して通行できるようになった」等、安全・安心のまちづくりに寄与することが出来た。  
 「防災備蓄倉庫設置に伴う対象自治会へのアンケート」の自由意見より、「備蓄倉庫内の備品の使い方を知りたい」や「備蓄倉庫を利用した防災訓練の提案」等、住民の防災に対する意識が向上した。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3 - モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
事業活用調査により、H21年度に実施	予定どおり実施した	【実施頻度】1回 【実施時期】H21年度 【実施事項】 交付金事業の計画変更履歴(当初～第3回変更) 指標中間計測・事後評価時点の数値予測(指標1を除く) 定性的効果のまとめ 指標改善への事業の貢献度 【実施結果】 事後評価年度の前年度で、事業が円滑に進み、かつ、概ね目標達成できる見通しを得た。	将来の他地区計画においても、モニタリングにより中間的な検証機会を設けるよう努める
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3 - 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
地域住民で構成された運動公園整備協議会の開催	予定どおり実施した	【実施頻度】12回 【実施時期】H16年10月～H22年5月 【実施結果】運動公園基本計画の説明から始まり、B&G南駐車場整備、北側進入路及び排水路整備、南側進入路整備等について地元の合意を得ながら事業を進めることができた。	将来の他地区計画の主要な施設計画においても、住民の合意を得て事業を進める。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由 )		

### 添付様式3 - 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		体制構築に向けた取組内容	まちづくり組織名:組織の概要	
花いっぱい運動	予定どおり実施した	住民参加による、公園等の公共用地での花の植栽、維持管理、ゴミ拾い等の実施。	毎年2回(5月・11月)、各回約2万人参加 都市再生整備計画計画期間中の数量 延べ参加人数 約20万人 ごみ収集量 約54.8トン	今後も継続する
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			
ロードサポーター制度による奉仕活動への補助対応	予定どおり実施した	H17年度に可児市「かにロードサポーター」制度を設立し、住民参加による、市道のゴミ拾い等の実施。	対象団体数 8団体(H21年度) 参加延べ人員数 7,108人	今後も継続する
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由 )			



(3) 効果発現要因の整理

添付様式4 - 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画(可児市南西地区)事後評価内部検討会議	都市計画課、土木課、維持管理課、防災安全課、水道課	平成22年10月14日	都市計画課

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

種別	指標の種別		指標1	指標2	指標3	指標4		
	指標名	事業名・箇所名	幹線道路沿線騒音値	団地内通学路の歩行空間整備率	公園利用者数	安心して防災施設を利用できる人数		
			指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見		
基幹事業	道路 市道50号線		-	車道舗装を排水性舗装とすることで、減音効果を実現し、道路機能や騒音面の住環境を改善できた。	-	団地内歩道付き通学路の整備水準を上げ、安全な通学路を確保できた。また、地区内の歩道整備により歩道の連続性を向上し、歩行者の安全に寄与できた。	公園周辺道路整備による車アクセス及び歩行者導線の向上、公園施設の拡充により利用者数を増大でき、レクリエーション・アメニティ機能を向上させた。	備蓄倉庫完備の避難所整備により地区内住民が安心して避難することが可能となった。また、上水道、消火栓整備によりライフラインを確保し、災害時に備えることができた。さらに、地区内の道路整備水準を上げることで安全に避難所までのルートを確保できた。
	道路 市道30号線		-					
	道路 市道38号線		-					
	道路 市道8170号線他4路線		-					
	道路 市道7019号線他2路線		-					
	道路 市道6146号線		-					
	道路 市道144号線		-					
	公園 可児川下流域自然公園		-					
地域生活基盤施設 備蓄倉庫		-						
地域生活基盤施設 消火栓整備		-						
提案事業	地域創造支援事業 西可児大橋耐震設計 可児市南西地区		-					
	地域創造支援事業 水道施設整備 可児市南西地区		-					
	事業活用調査 事業効果分析事業 可児市南西地区		-					
関連事業	公園整備事業 可児市運動公園		-					
	交通安全施設等整備事業 市道31号線		-					
	市道30号線橋梁耐震補強整備事業 市道30号線		-					

指標改善への貢献度

- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ・事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	排水性舗装の減音効果を持続させるため、舗装の維持管理(目詰まり等の解消)を確実に実施していく。	都市再生整備計画期間後も事業を継続し、歩道付き通学路の未整備区間全ての改善を目指す。	公園の健康増進機能についてPRすることで、公園利用者の増加を図る。	市民の災害時に対する意識と備えをPRすることで、災害に強いまちづくりを推進していく。
-------	---	--	-----------------------------------	--

添付様式4 - 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標5		その他数値指標1		その他数値指標2			
指標名		受益戸数		歩道の歩きやすさに対する住民評価度		防災備蓄倉庫設置による生活安全度住民評価度			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路 市道50号線	-	バイパス管を設置することで各家庭へ安心安全な上水道の供給を行うことが出来、ライフラインを確保できた。	-	団地内歩道付き通学路の整備水準を上げ、安全な通学路を確保できたこと等の住環境の安全性について、住民の評価により確認できた。	-	備蓄倉庫完備の避難所整備により区内住民が安心して避難でき、防災性が向上したことを、住民の評価により確認できた。	-	
	道路 市道30号線	-		-		-			
	道路 市道38号線	-		-		-			
	道路 市道8170号線他4路線	-		-		-			
	道路 市道7019号線他2路線	-		-		-			
	道路 市道6146号線	-		-		-			
	道路 市道144号線	-		-		-			
	公園 可児川下流域自然公園	-		-		-			
	地域生活基盤施設 備蓄倉庫	-		-		-			
地域生活基盤施設 消火柱整備	-	-	-	-					
提案事業	地域創造支援事業 西可児大橋耐震設計 可児市南西地区	-	-	-	-	-	-	-	-
	地域創造支援事業 水道施設整備 可児市南西地区	-	-	-	-	-	-	-	-
	事業活用調査 事業効果分析事業 可児市南西地区	-	-	-	-	-	-	-	-
関連事業	公園整備事業 可児市運動公園	-	-	-	-	-	-	-	-
	交通安全施設等整備事業 市道31号線	-	-	-	-	-	-	-	-
	市道30号線橋梁耐震補強整備事業 市道30号線	-	-	-	-	-	-	-	-

指標改善への貢献度

- ・: 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ・: 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- ・: 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	改善した環境の維持を図る。	都市再生整備計画期間後も事業を継続し、歩道付き通学路の未整備区間全ての改善を目指す。	市民の災害時に対する意識と備えをPRすることで、災害に強いまちづくりを推進していく。
-------	---------------	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5 - 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画(可児市南西地区)事後評価内部検討会議	都市計画課、土木課、維持管理課、防災安全課、水道課	平成22年10月14日	都市計画課(都市再整備計画事業主管課)

##### 添付様式5 - まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
名古屋へのアクセス道路として、交通量の大幅な増加に伴い、団地内の通過車両が多く、様々な生活環境問題を引き起こしている。	舗装整備により騒音が低減され、団地内の生活環境の改善に貢献した。	なし	道路整備にともなう植栽、街路樹の撤去により、路上駐車が増加している
丘陵地での住宅団地が多いことから起伏のある道路環境は、今後高齢化社会を迎え、安全、安心な歩道確保が急務となっている。また、年少者の安全な通学を確保するため、通学路の歩行空間整備が求められている。	歩道整備により、高齢者や年少者にとって安全・安心な歩行空間を確保した。	なし	
地域の住民は高齢化を迎えようとしており、健康増進や安らぎを求めて公園機能の充実やアクセス性の向上が要望されている。	可児川下流域自然公園等の整備により、公園機能が充実し利用が促進された。	なし	
消火栓の設置数が基準に達していないので、地域住民の安全確保を図るため早急な整備が必要である。	本事業により消火栓の設置数が基準に達した。また備蓄倉庫の設置もあわせて地区の防災力が向上した。	なし	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5- B欄に記入します。

**添付様式5 - 今後のまちづくり方策**

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	道路における騒音等の発生抑制	排水性舗装の減音効果を持続させるため、舗装の維持管理(目詰まり等の解消)を確実に実施していく。	毎月のパトロール、年1回の清掃の継続的な実施
	安全・安心な歩道確保	都市再生整備計画期間後も事業を継続し、歩道付き通学路の未整備区間全ての改善を目指す。	歩道整備の推進
	公園機能の充実と利用促進	予約システムや利用方法の利便性向上やイベント開催等のソフト施策の充実による公園等の利用促進を図る。 また、可児川下流域自然公園へのアクセス道路については、国道と県道の交差点事業が進みつつあるため、今後も国、県と協議を進めていく。	公園利用促進ソフト方策の検討 交差点事業の推進
	地区の防災力の向上	市民の防災意識向上にむけてPRする。	可児市防災訓練および地区毎の防災訓練の継続

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	路上駐車増加	交通マナーの啓発を行う。	交通指導(交通指導員等)の継続
	歩道の拡幅方針の検討	今回の事業では歩道拡幅に伴って植栽を除去したが、他地区の事業で同様のケースが増えることを抑制するため、歩道の拡幅方針を検討する。	歩道整備方針の検討

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

様式5 - の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input type="checkbox"/>	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4 - )を再確認した。
<input type="checkbox"/>	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4 - )を再確認した。
<input type="checkbox"/>	残された課題や新たな課題(添付様式5 - )を再確認した。

**添付様式5 - 参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見**

なし

**添付様式5 - 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-1、2-2に記載した全ての指標について記入して下さい。  
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-1、2-2から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が「×」の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	幹線道路沿線騒音値	dB	71	H16	68	H22	確定 見込み	66		あり なし		-		
指標2	団地内通学路の歩行空間整備率	%	22	H16	50	H22	確定 見込み	81		あり なし		H23年8月	鳩吹台、緑団地内における歩道付き通学路の内、歩道空間が改良された率(延長比)を計測	
指標3	公園利用者数	人	43,700	H16	63,000	H22	確定 見込み	78,400		あり なし		H23年8月	可見市総合運動場と坂戸市民テニスコートの利用者数合計	
指標4	安心して防災施設を利用できる人数	人	1,050	H16	4,050	H22	確定 見込み	4,050		あり なし		-		
指標5	受益戸数	戸	0	H16	10	H22	確定 見込み	10		あり なし		H23年8月	水道台帳に基づき、減圧弁が設置してあり安定した給水を受益できない住宅戸数(10戸)に対し、バイパス管の設置により給水が改善できた戸数	
その他の数値指標1	歩道の歩きやすさに対する住民評価度	%	-	-	/	/	確定 見込み	90	/	/	/	-		
その他の数値指標2	防災備蓄倉庫設置による生活安全度住民評価度	%	-	-	/	/	確定 見込み	71	/	/	/	-		
その他の数値指標3					/	/	確定 見込み		/	/	/			

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	住環境の安全性やバリアフリー、公園等のレクリエーション・アメニティ・機能の目標のいずれも達成することができた。アウトプットの2つの指標について、アンケート調査によるアウトカム数値指標を追加したことにより、目標の達成を確認できた。	アウトカム指標を採用するよう努力する。
	うまくいかなかった点	なし	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	当初計画からの事業追加に対応して、2つの指標を追加設定したため、目標達成及び事業効果発現を的確に把握できた。	他地区計画において、事業構成と指標間の整合性に配慮し計画する。
	うまくいかなかった点	一部事業の効果を適切に把握するための指標を設定することが困難であった。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	・運動公園協議会による地域住民の声を施設計画等に反映できた。 ・H17年度創設の「かにロードサポーター」制度により、道路空間維持保全に地域住民が参加する持続的体制がスタートできた。	他地区のまちづくりについても、住民参加による意識意向反映や住民活力によるまちづくり活動を続けていく。
	うまくいかなかった点	なし	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	・中間年次でモニタリングを行ったことで、事業の効果に見通しがついた。 ・庁内の横断的な検討体制により、まちづくりの事業と効果、今後のまちづくり方策について共有ができた。	他地区のまちづくりの際にも、事業関係課が計画・事業の企画から事後評価まで、横断的な検討の場を設ける。
	うまくいかなかった点	なし	
その他	うまくいった点	なし	なし
	うまくいかなかった点	なし	

## 添付様式6 - 参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画の活用予定  
本市においては、可児駅東地区において都市再生整備事業を継続中である。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市ホームページへの掲載により公表	平成22年10月18日～11月1日	平成22年10月18日～11月1日	ファックス送付、窓口意見書持参、メール送付	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	市広報掲載による周知	市広報第679号(平成22年10月15日刊)	平成22年10月18日～11月1日		
説明会・ワークショップ	-	-	-		
その他	市都市計画課窓口での閲覧	平成22年10月18日～11月1日	平成22年10月18日～11月1日		

住民の意見	<p>・今回の事業で施工していただいた植栽帯を撤去する工事によって、たいへん歩きやすくなった。植栽帯がなくなることで道路上の緑と触れ合う場所が少なくなったとも言えるが、歩道の幅が増えることにより歩行者が歩きやすくなる。また、車道・歩道全体を見るにあたり、すっきりとして落ち着いたと思う。</p> <p>・市内には古くからの住宅団地が多く点在し、狭い歩道に無理に植栽帯があり、歩行者が利用しにくい状況が見受けられる。今後もできるかぎり、そのような箇所の改善をすすめていただくようお願いしたい。</p> <p>・市内にある住宅団地に住む住民の高齢化が進んでいる中、最近ではデマンドバスなどのように公共交通機関の重要性が増している。そのような交通機関を使うための団地内の整備に加え、バス停や駅、さらには生活に必要な施設までを結ぶ歩道の整備をお願いしたい。また、それらは安全を確保しながら、バリアフリーであることを望む。</p>
-------	--

## (6) 評価委員会の審議

### 添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	藤原宣夫(岐阜県立国際園芸アカデミー教授) 伊藤栄一(森のなりわい研究所代表)	平成22年11月18日	都市計画課	可児市まちづくり交付金評価委員会設置要綱	新規に設置
その他の委員	勝野政輝(春里自治連合会会長)				

審議事項 1	委員会の意見	
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	指標の計測手法はもう少し明確に書いた方がいいのではないか。 事業を的確に評価する指標がない場合があったことから、フォローアップで対処していく必要があるのではないか。
	成果の評価	その他の数値指標として、アンケートの他の設問の方がよりよい指標があるため差し替えたらどうか、との委員会意見をふまえ、委員会の了承を得て差替えるものとする。
	実施過程の評価	とくに意見はないが了承する。
	効果発現要因の整理	効果があった事業を、より絞って整理をすべきである。
	事後評価原案の公表の妥当性	ホームページや広報で告知して適切に実施して意見もいただいております、事務局が努力されたと思う。
	その他	とくになし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	事後評価の手続きは妥当に進められたことを了承する。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	街路樹の撤去は上位計画等と相反する可能性があることから、今後の事業の見直しの際には再検討していただきたい。 可児川下流域自然公園への道路が接続されていない件については、今年の秋から国道と県道の交差点事業が動きつつあることを、シートの適切な箇所に反映させていただきたい。
	フォローアップ	とくに意見はないが了承する。
	その他	とくになし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	今後のまちづくり方策は妥当であると認める。
その他	とくになし。	

1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考してください。



# 都市再生整備計画(第5回変更)

かにしなんせいちく  
可児市南西地区

ぎふけん かにし  
岐阜県 可児市

平成23年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	可児市	地区名	可児市南西地区	面積	931 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

<b>目標</b>							
大目標: 住環境を再生し安心・安全・潤いのあるまちづくりを目指す							
目標1 まちづくりの基本性能である安全性やバリアフリーに配慮した住環境づくり							
目標2 やすらぎと潤いや健康増進に資するレクリエーション・アメニティ・機能の向上							

<b>目標設定の根拠</b>	なし
----------------	----

まちづくりの経緯及び現況

- ・当地域は名古屋から1時間以内の通勤通学圏にあることから名鉄西可児駅を中心に昭和40年代後半から急速に住宅団地が開発されてきた。
- ・現在大規模な住宅団地は名鉄西可児駅を中心に7カ所があり、定住人口は20,000人を超える状況でDID地区となっている。
- ・名鉄西可児駅の1日の乗降客は7500人を超える状況であり、駅周辺は西可児土地区画整理事業による商業施設の集積地として活発な商業活動を展開している。
- ・平成15年に西可児駅前バリアフリー基本構想を策定し、駅周辺のバリアフリー化を進めている。
- ・可児市第三次総合計画では住みやすい快適環境都市づくりの目標を掲げているが、当地域内の団地では「市民参画と協働のまちづくり条例」に基づく協議会が発足し、住民主体の快適なまちづくりへの機運が高まっている。

**課題**

大規模な住宅団地が集積している当地域の住環境を快適にするため以下のような課題が上げられる。

- ・名古屋へのアクセス道路として、交通量の大幅な増加に伴い、団地内の通過車両が多く、様々な生活環境問題を引き起こしている。
- ・丘陵地での住宅団地が多いことから起伏のある道路環境は、今後高齢化社会を迎え、安全、安心な歩道確保が急務となっている。また、年少者の安全な通学を確保するため、通学路の歩行空間整備が求められている。
- ・地域の住民は高齢化を迎えようとしており、健康増進や安らぎを求めて公園機能の充実やアクセス性の向上が要望されている。
- ・消火栓の設置数が基準に達していないので、地域住民の安全確保を図るため早急な整備が必要である。

**将来ビジョン(中長期)**

当地域については低層住宅団地を中心として暮らしやすく、住み続けられる生活環境を形成する。

- ・可児市都市計画マスタープランにおいて住宅地や駅周辺ではバリアフリー化や歩行空間の確保等により、生活の利便性の向上を図り良好な住環境を保全することとしている。また、可児川下流域自然公園や可児市運動公園を市民のスポ・ツ・レクリエーションの拠点に位置づけ、整備を促進するとともに利用者の利便性に配慮したアクセス道路の設置を進めることとしている。
- ・可児市第三次総合計画では各地域ごとの現状と将来予測のもと、消火栓・防火水槽の整備を進め、防火機能の充実を図ることを掲げている。

**目標を定量化する指標**

指標	単位	定義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
1 幹線道路沿線騒音値	dB	団地内における幹線道路沿いの騒音値	幹線道路沿いの住宅団地の騒音値が高いことから、住環境の向上を図る。	71	平成16年度	68	平成22年度
2 団地内通学路の歩行空間整備率	%	団地内通学路の内、歩行空間が整備された率	団地内通学路の歩行空間整備率を高めることにより安全性の向上を図る。	22%	平成16年度	50%	平成22年度
3 公園利用者数	人	可児市運動公園利用者数	レクリエーション機能及びアクセス性の向上により、公園利用者数の増加を図る。	43,700	平成16年度	63,000	平成22年度
4 安心して防災施設を利用できる人数	人	地区内の指定避難所の防災機能を充実させる計画に基づき、備蓄倉庫を整備することにより安心して防災施設を利用できる人数	備蓄倉庫の設置により防災機能を向上し、被災時に安心して避難所を利用できる人数の増加を図る。	1050人	平成16年度	4050人	平成22年度
5 受益戸数	戸	安定した給水を受給できる戸数	安定した給水を行うために減圧弁を撤去してバイパス管を設置し、安心安全な住環境を整備する。	0戸	平成16年度	10戸	平成22年度

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(道路機能、防災・防火機能、ライフライン機能の向上による住環境の改善)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・排水性舗装による騒音の低減</li> <li>・通学路の歩行空間整備及び駅周辺のバリアフリ - 化による、安全で快適な道路環境の実現</li> <li>・消火栓・備蓄倉庫の適正な配置や橋梁の耐震補強による地域防災機能の向上</li> <li>・上水道の減圧弁調整による不安定な給水区域の解消</li> </ul>	<p>方針に合致する主要な事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西可児駅前バリアフリー基本構想整備事業(関連事業、市)</li> <li>・交通安全施設等整備事業(関連事業、市)</li> <li>・市道50号線(基幹事業)</li> <li>・市道30号線(基幹事業)</li> <li>・市道38号線(基幹事業)</li> <li>・市道8170号線他4路線(基幹事業)</li> <li>・消火栓整備(基幹事業)</li> <li>・西可児大橋耐震設計(提案事業)</li> <li>・備蓄倉庫整備(基幹事業)</li> <li>・水道施設整備(提案事業)</li> </ul>
<p>整備方針2(レクリエ - ション・アメニティ - 拠点の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テニスコート・野球場等の増設による運動公園レクリエ - ション機能の向上</li> <li>・運動公園、自然公園の進入路や駐車場等の整備による利用者の利便性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・可児市運動公園整備事業(関連事業、市)</li> <li>・市道7019号線他2路線(基幹事業)</li> <li>・市道6146号線(基幹事業)</li> <li>・可児川下流域自然公園(基幹事業)</li> <li>・市道144号線(基幹事業)</li> </ul>
<p>その他</p> <p>花いっぱい運動について          良好な公共空間を創造するためには市民参加の活動が必要不可欠な時代となってきたことから、年2回、春と秋に市民全員で歩道の清掃や花壇の植栽などを市内全域にわたり一斉に行う活動を継続的に実施している。なし</p> <p>ロードサポーター制度による奉仕活動への補助対応について          平成17年度より開設された制度で、地域の道路除草、ゴミ拾いなどを各地域で有志を募って参加して頂き、地域でできることは協力して頂き、地域環境を整備しており、今回の歩道空間整備によりサポーターの意欲が高まる事を期待し、今後も積極的に支援していく。</p>	

